

國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

プロジェクト活動紹介2

『國學院大學国学研究プラットフォーム』の展開：
明治期の国学・神道関係人物を中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學研究開発推進機構 公開日: 2023-02-08 キーワード: 作成者: 遠藤, 潤 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001904

『『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開 —明治期の国学・神道関係人物を中心に—』

プロジェクト責任者 遠藤 潤

本プロジェクトは、日本文化研究所の神道・国学研究部門における3ヶ年の研究事業として2015年度から始動したものである。「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の構築」(2011～2013年度)、「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』を拠点とする国学の『古事記』解釈の研究」(2014年度)に引き続き、本プロジェクトでは神道・国学研究の拠点である「国学プラットフォーム」を運営しつつ、それを拠点として「国学研究の基礎的データ構築」、および「国学に関する研究連携のための組織づくり」を継続・発展させることを目標としている。具体的には、明治期の神道・国学・宗教関係人物の基礎的情報を収集・整理し、また定例の国学研究会を行うとともに、人物関係の収集情報や研究会などで得られた研究情報の公開を行うことを目指してきた。

第1年次となる2015年度では、まず基礎的データ構築の対象となる人物をリストアップした上で、その中から明治の宗教行政に関与した重要人物をピックアップし、人物情報の収集・整理を行った。下半期からは優先度の高い人物を対象としてデータベースの項目作成を進めていった。

また京都府立総合資料館や京都市歴史資料館、国立歴史民俗博物館において人物情報に関する資料調査を行った。

組織づくりに関しては、国学研究会を継続的に実施するとともに、社家文書研究会において井上頼国宛の平田鏡胤書簡の読解と翻刻を進めた。

2016年度の本プロジェクトのメンバーは以

下の通りである。

責任者 遠藤潤

分担者

専任教員：塚田穂高

兼任教員：松本久史

PD研究員：齋藤公太

研究補助員：芹口真結子

客員教授：林淳

共同研究員：一戸渉、小田真裕

2016年度研究事業の成果

I 国学に関する基礎的研究「近代の神道・国学関係資料の調査ならびに重要な人物を焦点とした先行研究の調査・検討」

2015年度に引き続き、明治期の国学・神道・宗教関係人物に関する研究文献リストの作成を行った。特に2016年度は重要人物としてピックアップした約140名の人物を対象として、重点的な調査・研究を行った。

とりわけ幕末から維新时期にかけての国家的教化活動や神社行政の分野で活動した西川吉輔に着目し、2017年2月6～8日に滋賀大学経済学部附属史料館所蔵の西川吉輔文書の調査を行った（詳細については「出張報告「研究事業『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開」による史料調査」を参照）。

これと並行して、近代における国学関連領域に関する調査・研究を実施した。すなわち本プロジェクトにおける人物研究に基づき、近世の国学が明治国学へ、さらに文献学や近

代の人文諸学などに展開していった諸相について調査と研究を行った。

具体的には、明治国学から近代国語教育への展開、とりわけ『神皇正統記』の刊本・注釈書について調査・研究を行い、その成果を論文として発表した（齋藤公太「明治国学と『神皇正統記』一刊本・注釈書から見る受容史一」『國學院大學研究開発推進機構紀要』9号、2017年3月）。

II 神道・国学に関する基礎的データの整理・

公開「明治期神道・国学関係人物の基礎的データをもとにした項目執筆と定期的な検討」

本プロジェクトにおける明治期神道・国学関係人物の基礎的データの収集・整理は、当初よりデータベースとしてネット上で公開することを目標としていた。2016年度は「國學院大學デジタル・ミュージアム」でのデータベースの公開を目指して具体的な調査項目やデータ設計について協議し、枠組みを決定した。データベースの名称も「明治期国学・神道・宗教関係人物データベース」と決定した。

また上記の重要人物に関する基礎的データの収集・整理を行い、その結果、91名の国学・神道関係人物、23名の教派神道関係人物、20名の仏教関係人物に関しては詳細な研究文献リストの作成が完了し、そのうち16名の国学・神道関係人物、20名の仏教関係人物に関しては、ネット上で公開可能なデータの作成が完了した。

III 国学に関する研究連携のための組織づくり

本プロジェクトは国学研究の組織づくりとして、江戸時代後期から明治期までを主たる範囲とした報告を順次行う国学研究会と、主として近世から近現代における神道・国学関係一次文献の読解・学習を目的とした社家文書研究会を運営してきた。2016年度は国学研

究会を主軸として開催し、計9回行った。神道、国学、日本宗教を専門とする学内外の若手研究者による発表が行われ、そのうち一部はのちに論文化された（詳細については「国学研究会・社家文書研究会」を参照）。

社家文書研究会は計2回開催し、井上頼圀宛平田鏡胤書簡の読解と翻刻を進めた。

2017年度の実施計画

I 国学に関する基礎的研究

(1) 先行の目録類などによる明治期の人物の確認を前提として、当該期の国学者、神道関係人物、教派神道関係人物などに関する著書・論文についての網羅的なリストを作成しつつ、重要な研究成果について研究会で報告を行う。また、2016年度までの史料調査で確認した内容について、検討・研究を継続する。先行研究が少ないが明治前期に重要な活動をした人物については、関係論文を執筆する。

(2) 上記(1)とあわせて、2016年度と同じく近代に国学から関連領域（信仰、学問、そのほか）へと展開した人物の調査・研究を切り口として、江戸後期から明治期にかけて国学を学んだ人々が、近代に入ってから教派神道や仏教その他の信仰へと活動を広げた様子、あるいは、明治期に新たな国学研究をはじめ文献学や近代の人文諸学などに学問を展開させた様子などを、一次文献や先行研究の調査を踏まえて研究する。特に幕末～明治前期の重要な史料については出張調査も行う。

II 神道・国学に関する基礎的データの整理・公開

(1) 明治期の国学者および神社・教派神道関係人物に関する先行の目録類、「国学関連人物データベース」の記載事項の確認ならびに関係分野の先行研究の確認と内容の検討、また調査項目やデータ設計などの具体的検

討、基礎的データをもとにした項目執筆などを継続して行う。

(2) 2017年度は、前年度より引き続き、明治期の国学者および神社・教派神道関係人物に関する基礎的データの収集・整理を行う。データの整理については、研究員とともに作業協力者が従事する。データについては、3年間の研究事業が終了するため、整った形でまとめと保管を決定・実施し、デジタル・ミュージアムで公開する。

(3) 「国学研究プラットフォーム」によるこれまでの研究成果の整理と発信、旧日本文化研究所収集資料の現存状況の確認も継続して行う。

Ⅲ 国学に関する研究連携のための組織づくり

(1) 3年間の研究事業の総括と日本文化研究所「神道・国学部門」の中間総括の意味を込めて、シンポジウム「明治期における国学と教派神道（仮題）」を開催する。

(2) 江戸時代後期から明治期までを主たる範囲とした報告を順次行う国学研究会を月1～2回程度開催する。

(3) 主として近世から近現代における神道・国学関係一次文献の読解・学習を目的とした、社家文書研究会を運営する。